

新型コロナウイルス感染症 抗体カクテル療法について

市民病院
院内感染対策委員会
総合診療科診療部長

木村 天永 医師
監修

▽市民病院（代表）TEL 22・2171
ID 751376216（ほのか診察室）

令和2年から新型コロナウイルスが世界中に広がり、日本でも多くの陽性者が報告されています。

症状は、発熱や呼吸器症状（咳・咽頭痛）、頭痛、倦怠感、嗅覚、味覚障害が多くみられます。新型コロナウイルス感染症の80%は、発症から1週間程度で回復すると言われています。一方で、酸素投与が必要な方や重症化する方もいます。

当院の新型コロナウイルス感染症に対する薬物治療は、主に「抗体カクテル療法」や「抗ウイルス薬の投与」です。これらの治療を行なうことで、重症化リスクの低減が期待できます。

今回は、「抗体カクテル療法」についてお話しします。

抗体カクテル療法 （ロナプリーブ）

ロナプリーブは2種類の抗体（※）を混ぜて使用します。2種類の抗体が結合することで新型コロナウイルスの増殖を抑制すると考えられています。

※特定の異物にある抗原（目印）に特異的に結合して、その異物の体内からの除去を促す分子。

- 使用回数 1回
- 投与方法 点滴静脈注射
- 投与時間 30分から1時間



● 対象患者
新型コロナウイルス感染症の重症化リスク因子（左図）を有し、酸素投与を必要としない方。

重症化リスク因子

- ◆ 高齢
- ◆ 肥満
- ◆ 糖尿病
- ◆ 心血管疾患（高血圧を含む）
- ◆ 慢性肺疾患（喘息を含む）
- ◆ 慢性腎障害（透析患者含む）
- ◆ 慢性肝疾患
- ◆ 免疫抑制状態と考えられる方（がん治療・免疫不全など）

● 副作用

ロナプリーブを含むモノクロナール抗体製剤と呼ばれる薬を点滴すると、過敏症やアレルギーのような症状が現れることがあります。この身体の反応をインフュージョンリアクションと言います。また、薬に対

して身体の免疫機能が過剰に反応する事で全身に起こる急性アレルギー反応がごくまれに起こることがあります。

発熱、悪寒、吐き気、全身のかゆみなどの症状も出現する事がありますが、適切に対応することで治癒します。

おわりに

新型コロナウイルスは、一般的に、飛沫感染、接触感染が感染経路と考えられています。咳やくしゃみなどの症状がない発症前でも、感染性があることが感染予防を難しくしています。

抗体カクテル療法は、新型コロナウイルスの感染を予防するものではありません。予防にはワクチン接種

が基本です。それに加えて、手洗いや手指消毒の徹底、マスク着用、3密回避など、人との距離をとることが重要です。ご家族や同居者が感染した場合は、生活する場所を可能な限り分ける、食事の時間をずらす、換気をする、会話時はマスクを着用するなど心がけて生活することが大切です。

市でも新型コロナウイルスワクチン接種が進んできていますが、季節性インフルエンザの流行期に入っています。今後も感染予防を行い、体調に変化がある場合は、早めに医療機関へ相談し、受診しましょう。

